



朝風

平成29年度
学校報 11月号②
大仙市立
大曲南中学校

秋最終章 西中・南中合唱交流会

冷たい北風が吹いた先月の30日、ついに交流会が実現しました。開会行事に引き続き、西中の2年生の発表がありました。そして、本校のトップは2年生でした。

2番 南中2年

「地球星歌～笑顔のために～」

指揮：伊藤さん 伴奏：伊藤さん&伊藤さん



☆「西中生は上手かったけれど、私たちもベストの歌ができたと思います。気持ちよく歌えたと、楽しかったです。次の交流会では、西中生の友達をつくりたいです。」(2年佐藤さん)

3番 南中1年 「未来へのステップ」

指揮：高橋さん 伴奏：高橋さん



☆「人がいつもより多くてとても緊張したけれど、『一心結声』という目標に向かって、今までで一番よい合唱ができたと思いました。これからもたくさんクラスで団結したいです。」(1年最上さん)

前に南中にいた時、密かに構想を温め、次の大規模校の勤務時代にやはり必要だと実感し、今年度赴任して「えいっ！」と実行に着手したのがこの中・中連携プロジェクトです。

本校でも、校内の陸上・合唱・球技のイベントはあったのですが、「やはり3年生はすごいな」で終わってしまいます。そこで、小規模校の生徒にも同じ学年の学級同士で刺激し合う体験を提供できないかと思案していたところ、大曲西中学校の心優しい戸嶋校長先生から賛同をいただきました。そして、今年度から合唱と球技について、両校で同学年同士の刺激になるような交流会的体験活動を行うことになったのです。ポイントは、学校対抗にしないことと互いの学校を歩き来して交流を深めることです。

10月30日、両校の先生方のご理解とご協力のおかげで、ついに西中・南中合唱交流会が実現しました。今回はコンペティションとはせず、両校と関わりの深い前音研会長の田村忍先生を講師にお迎えし、全学級の合唱について講評をしていただくことにしました。

キャパにちょうどいい数の生徒・職員・保護者が入った本校体育館に、両校の各学級の歌声が響きます。隣に並んだ学級を意識しながらも真摯に聴き入る生徒の態度、休憩時間の両校生徒の交流、いつもの倍の人数で歌った「秋田県民歌」から生まれた高揚感など、期待していたものが全て詰まった時間がありました。田村先生の「ありそうでなかった演奏会を企画し、実現させた皆様に拍手を送りたい」との言葉が嬉しかったです。(校長 後藤 宏)

5番 南中3年 「あなたへ」

指揮：佐々木さん 伴奏：石塚さん



☆「西中の人たちはすごく歌が上手で驚きました。あのすばらしい歌い方を見習いたいです。友達も前よりたくさんできました。高校のこととかいろんな話を久しぶりにしました。次のスポレクの交流会が楽しみです。」(3年高橋さん)



休憩時間の様子



頑張る新執行部



田村先生の講評



田村先生指揮によるフィナーレ「秋田県民歌」



歓送「次はおしゃまします！」

田村先生の講評

2番 南中2年

「地球星歌～笑顔のために～」

男女のバランスがよい学級ですね。声の出し方が素直で、曲のメッセージを伝えるために十分納得させることができるものでした。特に、ソプラノとアルトの3度の響き、男声の出してほしい部分の説得力がありました。これからもこの響きを大切に演奏を心掛けて頑張ってください。ありがとうございました。

3番 南中1年

「未来へのステップ」

とても元気のあるクラスで、自由曲の「未来へのステップ」にぴったりですね。この元気は、勢いのあるリズムをしっかりと表現できているからですね。すばらしい。各パートもしっかり歌い切ることができました。とてもよいハーモニーでした。ブラボー！！指揮者、伴奏者もよくリードしていましたね。

5番 南中3年

「あなたへ」

各パートともによく響く歌い方を身に付けていてすごいと思いました。そしてここは曲の心臓部というポイントをはずすことなく、メンバーが丸となって表現し切っていましたね。すばらしい！！音楽づくりの中心となって頑張った指揮者、伴奏者にも大きな拍手です。ブラボー！！

* 荒天にもかかわらずおいでくださいました保護者の皆様にも感謝申し上げます。

”参画のはしご”のレベル高っ！

- 5月に、小中合同 ESD 研修会を開催した時、講師としてお招きした目白大学教授石田好広先生から「参画のはしご」というお話がありました。参画にはいくつかの段階があり、「操り参加」「形だけの参加」という段階は実は**非参画**である。「子どもが主体的に取りかかる」ことが、参画のはしごの上位にあり、子どもの自治力の育成につながるという内容でした。



- 11月3日に、かわ舟の里角間川で「第5回かわ舟祭」が開催されましたが、本校3年生の5人が進んでボランティアに応募し、食堂や喫茶部門で運営に協力してくれました。

菊池さん	佐々木さん
佐々木さん	最上さん
羽田さん	

- かわ舟の里角間川のスタッフの方からは「今の中学生はすごいと（スタッフで）感心していました。お願いしなくても、自分で気付いて動いてくれましたし、片付けなどの仕事も嫌がらないでやってくれました。中学生がいなかったら大変だったとみんなで話していました。」との感謝の電話がありました。



ヘルメットリレーレポート第8弾



◇ 「ちょっとサイズが合わない感じで窮屈でした。」
(2年Tさん)

*お借りしているもののサイズが片寄っていてすみません。

◇ 「被っていて、なんだかとても守られている感じで安心感がありました。暖かったし…。」
(2年Iさん)

◇ 「そうそう、暖かった！やはり安心感もありました。」
(2年Gさん)

◇ 「最初は、周りの人の目が気になったけれど、すぐに気にならなくなりました。」
(1年Fさん)